

いろは呑龍トンネル南幹線 シールド内部や凍結現場見学など

府建設業協会



洛西浄化センターで開かれた開会式

(一社)京都府建設業協会(岡野益巳会長)は10月30日、高校生に建設工事の現場を肌で感じてもらおうと、府流域下水道事務所が雨水対策として進める「桂川右岸流域下水道幹線管渠工事(いろは呑龍トンネル南幹線工事)」の現場見学会を開催し、京都市立伏見工業高校システム工学科都市情報システムコースの3年生30人が参加した。洛西浄化センター(長岡市勝竜寺樋ノ口)の



流域下水道事務所の市田所長

府建協の絹川委員長

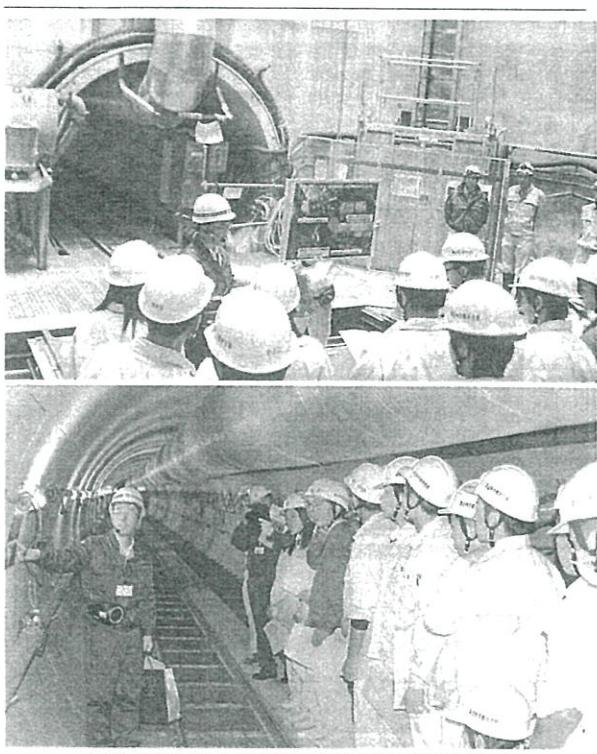
現場事務所前で開会式があり、府建協の絹川雅則労務経営委員長は「みなさんにとってこの見学会はなかなか得難い機会になる。施工関係者や府の職員にどんどん質問し、みなさんの将来につなげてほしい」と挨拶。流域下水道事務所の

市田雅巳所長は「工事現場が持つ迫力をみなさんに体感してもらい、今後のキャリア形成について寄与してもらえば」と呼びかけた。

見学会ではまず、府職員から呑龍トンネルの事業概要など説明を受け、洛西浄化センター(長岡市勝竜寺樋ノ口)の

28年2月からシールドトンネルの築造工事がスタート。洛西浄化センター内の立坑から20~30mに建設される。3・5mのトンネル。主に国道171号の地下に国道171号の地下に移動し、北幹線3号との接続工事で行われている凍結工法の現場を見学した。

南幹線は、最下流に位置する洛西浄化センターと、北幹線第3号(向日市鷄冠井町)を結ぶ延長4069m、内径3・5mのトンネル。主に国道171号の地下に国道171号の地下に移動し、北幹線3号との接続工事で行われている凍結工法の現場を見学した。



立坑(上)やトンネル内部(下)を見学した

ポンプ場地下に移動し、シールドトンネルのほか、呑龍ポンプ場や調整池(1万9962m³)を洛西浄化センター東側敷地に設置し、向日市・長岡市の公共下水道との接続施設6カ所(和井川、向日市西羽東師川、五間堀川1、同2・3、同4、同5)を建設する計画だ。

府では、32年度までにシールドトンネル、呑龍ポンプ場、接続施設の一部の整備を終え、同年度内の暫定供用を目指している。33年度以降に調整池、接続施設の残りの建設を進め、35年度の完全供用を予定している。

完全供用すれば、対策量23万8200m³(貯留機能18万9750m³、流下機能4万8450m³)を備えることになり、現在の約2倍、25m³/秒約800杯分の雨水にも対応できるようになる。南幹線整備には総事業費約200億円が投じられる。

